

木村知事が辞表

不信任確定で決断

木村守男知事は十五日午後十時前、「県政を停滞させたくない」として、県庁知事室で上野正蔵県議会議長に辞職願を提出した。現在開会中の県議会臨時会で、全会派が共同で提出する知事不信任決議案が可決する公算が大きくなっている。

議長は五日以内にその内容を県選挙管理委員会に通知する。通知の日から五十日以内に再選挙が行われる。

木村知事の女性問題は、一月の知事選直後に週刊誌が報道。この問題を踏まえ県議会は三月、辞職勧告決議案、不信任決議案を相次ぎ



上野県議会議長に辞職願を提出した木村守男知事

提出。辞職勧告は賛成多数で可決したが、不信任案は可決に必要な賛成数を二票下回り否決となった。しかし、四月の県議選では親知事派の現職議員が相次ぎ落選。自民党県連が十三日、積極的に不信任案に賛同すべきだ、との方針を決めるなど、不信任案可決に向けた動きが強くなっていた。

木村知事は、一九九五年に初当選九九年には知事選史上最高の四十二万三千票を獲得して再選を果たした。「県政奪還」を掲げていた自民党県連も、二〇〇〇年二月には県政与党に転換し、安定した県政運営を行う環境が整った。

しかし一方で、青森アジア冬季大会の経費膨張問題や県住宅供給公社十四億円横領事件と県政を揺るがす問題が相次ぎ、説明責任や結果責任を厳しく問われたこともあった。

今年一月の知事選で三選を果たしたが、激しい知事批判を展開する新人候補に約八万票差まで迫られ、木村県政に対する批判が顕在化していた。